

IEC/TC 124ソウル会議(設立総会)の報告

2017年9月18～20日、IECに新たに設置されたTC 124(ウェアラブルエレクトロニックデバイス及びテクノロジー)の設立総会が韓国・ソウルで開催されました。

IEC/TC 124設立の経緯

TC 124は、2014年11月のIEC東京大会でのSMB(標準管理評議会)会議において、韓国からウェアラブルスマートデバイスに関するTC(技術委員会)の新設が提案されたことが発端です。

当時、既に時計型や眼鏡型等のアクセサリ系のウェアラブル機器が市場に出始めており、既存のTCとのコンフリクトが懸念されることから、SMBでの慎重な検討が重ねられました。

SMB/ahG56やその後に設置されたSMB/SG10において、新TC設置の可否等を含めた議論が行われ、2017年2月のSMBメキシコシティ会議で、TC 124として新設することが正式に承認されました。

JEITAは、2015年SMBにStrategic Group 10(SG10)が設置された際に、経済産業省からの要請を受けて国内対応の受け皿として活動を開始しました。

その後、TC 124の設立承認を受け、日本工業標準調査会(JISC)に国内審議団体の引き受けの申し出を行ない、2017年3月に承認されました。

JEITAでは、経済産業省のご指導並びに関係企業、機関、団体等のご協力のもと、7月31日に第1回TC 124国内審議委員会を開催し、ソウル会議に先立って国内体制の構築を行うとともに国際会議に向けた対応等について審議し、準備を進めました。

TC 124国内審議委員会委員長には、東京大学大学院電子情報工学科教授の相澤清晴氏に、幹事長には東洋紡(株)の前田郷司氏にご就任いただきました。

IEC/TC 124の国際役員体制

TC 124の幹事国には、提案者である韓国が就任しました。

幹事 Jae Yeong Park氏

副幹事 Deok-kee Kim氏 副幹事 Jungchul Lee氏

一方、議長にはSMB/ahG56やSMB/SG10の時代から韓国をサポートし、積極的に協力して来た日本が就任することとなりました。

議長 平川秀治氏(東京電機大学)

IEC/TC 124ソウル会議の概要

TC 124ソウル会議にあたっては、シンガポールで幹事、議長、IECテクニカルオフィサーによる事前調整が行われ、会議は議長の進行により滞りなく執り行われました。以下に概要を紹介します。

今回はTC 124の設立総会となることから、各国代表エキスパートおよび各リエゾンTCメンバーが多数出席されました。初日9月18日の午前中は、オープニングセレモニーが行われました。平川国際議長による開会宣言に始まり、韓国経済産業副大臣による歓迎挨拶があり、そして韓国および日本によるウェアラブル・エレクトロニクスに関する招待講演が行われました。



開会を宣言する平川国際議長

午後から翌日9月19日にかけて、TC 124のDraft Agendaに基づいた各議事の審議が行われました。審議の概要は以下の通りです。

①TC 124のタイトルについて



当初提案通り [Wearable Electronic Devices and Technologies]とすることが確認されました。

②TC 124のスコープについて

TC 124が取り扱う分野は、

- ・patchable materials and devices
- ・implantable materials and devices
- ・edible materials and devices
- ・electronic textile materials and device

となっていました。[edible(食用)]を「ingestible(摂取可能)」に変更することが確認されました。

③各国によるプレゼンテーションについて

ウェアラブル・エレクトロニクスに関する市場動向および技術動向の紹介が行われました。日本からは、典型的なelectronic textile型機器を例示し、規格体系案等について紹介しました。



前田幹事長による日本のプレゼンテーション

④TC 124の組織構成について

以下の内容が合意されました。

AHG1の設置 今回プレゼンされたテーマを含む各種のNWIP(新規提案)に関する取扱いを議論するためのアドホックグループ。

AG1の設置 TC 124のSBP(戦略ビジネスプラン)、スコープの取扱い、新規分野開発、事業計画の更新と管理、関連TC/SCとの重複回避とコミュニケーション等を行うアドバイザリーグループ。

暫定WG1 用語

暫定WG2 electronic textile

暫定WG3 材料

暫定WG4 デバイスとシステム

※暫定WGは各国からの具体的な提案(NWIP)の承認後に正式なWGに移行する予定です。

⑤リエゾンの構築について

TC 124は、以下の委員会とのリエゾンを構築することが承認されました

IEC	TC 21, TC 29, TC 47, TC 62, TC 78, TC 100, TC 108, TC 110, TC 119, Sys AAL, SMB / ACSEC (TC 124代表)
JTC1	SC 41
ISO	TC 38, TC 94, TC 150
その他	CENELEC TC 206 CENELEC TC 248 / WG 31 ETSI

⑥次回以後の国際会議予定について

第2回TC 124総会

2018年5月14～16日 マンチェスター／英国

第3回TC 124総会

2018年10月22日～24日 釜山／韓国

今後の見通し、日本の課題について

日本としては、暫定WGに対応した国内のミラー委員会の設置と日本からの新規提案(NWIP)の準備を進める必要があります。

また、既存TC/SCにおける活動とのコンフリクトの解決や規格乱立を避けるための体系化と整合性の確保等が重要であり、円滑な国際標準化開発のために、幹事国である韓国と議長国である日本との連携が求められます。

JEITAはTC 124の国内審議団体として、TC 124国内審議委員会を運営していますが、この国内審議委員会のミラー組織となるJEITA標準化専門委員会を早期に発足させるための活動を推進して参ります。

ウェアラブル・エレクトロニクスは、今後様々な分野での成長が期待される技術ですので、会員企業の皆様のご参加をお願いいたします。